

## 問題提起

提起者 北脇保之（東京外国語大学多言語・多文化教育研究センター長）

### 外国人児童生徒の教育保障を目指して企業との連携ですすめる事業

東京外国語大学は明治以来の100年の伝統を持つ大学であり、26の言語教育研究、および世界各地の文化研究の蓄積がある。一方1990年代以降日本に在住する外国人が急速に増え、国内の多言語・多文化化が急速に進んでいる。東京外国語大学多言語・多文化教育研究センターにおいてはこれまでのように海外の事情を研究するだけでなく、こうした国内の課題についての教育、研究、社会連携を行っていくことが務めであると考え、そのような活動を行う中で、言語・文化の違いによって不利益をこうむったり、差別、排除されたりすることのない「多言語・多文化社会」の構築をめざす。

本フォーラムは現在多言語・多文化教育研究センターが三井物産株式会社の協力のもと進めている「在日ブラジル人児童むけ教材開発プロジェクト」の一環として行う。本プロジェクトは教材開発を通じて、学校教師や地域学習指導者の現場における取り組みを支援することを目指しているが、これまで漢字教材と算数教材をインターネット上で提供し、既に13万を超えるダウンロードがされ、全国で幅広く利用されている（\*URLは2ページ末を参照）。

外国人の子どもたちの教育を受ける権利をきちんと保障し、実現していくことは子ども自身の幸福につながるだけでなく、社会的公正の実現、そして外国人が多く住む新しい日本社会の安定を確保していく上で非常に重要なことである。また企業と大学の連携活動はまだまだ少ない中、本プロジェクトは先進的な事例ともいえる。その成果はしっかりと示していきたい。



### 問題提起

良い教材を開発してもそれが十分に活用されないと意味がない。教材開発を切り口として外国人児童生徒の教育に関する課題を論じる本フォーラムでは、よい教材を作るだけでなく、それらが使われるための環境を整えていくためにはどうすればよいかについても、第一線で活躍している皆さんと一緒に考えていきたい。以下はそのための問題提起である。

#### (1) 教材開発そのものの課題

- ①日本語指導教材は多数あるが、日本語教授法の研修の仕組みが伴っていないので、教材が十分活かされていない場合があるのではないかな。
- ②教科指導教材は、数そのものが少ないのではないかな。また、在籍学級で使用される教科書に即した指導だけでなく、算数における「足し算・引き算」、「掛け算」、「割り算」など系統別の指導とそのための教材も必要ではないかな。
- ③教材開発は国際学級担当教師や地域学習指導者たちの個人的な努力にゆだねられている傾向があり、予算、人材両面で体制が不十分ではないかな。
- ④開発された教材について、学校を越えた情報共有が不十分なため、活用が不十分であり、教材活用事例の蓄積による教材の改善も不十分ではないかな。

## (2) 教材を使う教師・指導者に関する課題

- ①国際学級担当教師の指導力や専門性をどのようにして高めるか。
- ②頻繁な人事異動により、国際学級への適正な人事配置が維持できないことをどうするか。
- ③国・地方自治体は、外国人児童生徒の教育における地域学習指導者の役割を明確にし、待遇改善を図るべきではないか。
- ④地域学習指導者の専門性を認証する仕組みや指導力を高めるための研修の仕組みを整備するべきではないか。
- ⑤学校と地域学習支援教室の協力関係と役割分担を明確にすべきではないか。

## (3) 外国人児童生徒の教育環境に関する課題

- ①拠点校方式の導入や市域を越えた通学を認めるなど、通学先を弾力化すべきではないか。
- ②年齢による学年編入を弾力化すべきではないか。
- ③いわゆる「初期指導」の達成目標をどこに置くか。外国人児童の日本語能力測定方法が必要ではないか。
- ④生活言語レベルではなく、学習言語としての日本語を習得させるにはどうしたらよいか。
- ⑤校長をはじめとした管理職の外国人児童生徒教育への理解をどのように高め、各学校の外国人児童教育を組織化するか。
- ⑥外国人の保護者に対し、日本の教育制度や進学に関する情報をどのように伝えるか。

## (4) 地方自治体、企業、大学、国の役割について

- ①地方自治体は、教材開発とその活用について自治体全体として取り組むため、組織整備と予算措置をすべきではないか。
- ②企業、大学、国、地方自治体、学校の協力関係をどのように築いていけるのか。

以上のような問題や課題について情報共有し、少しでも課題解決にむけての前進ができればよいと思う。各分科会ではこうした問題や課題に関する内容を扱えるような企画をしている。参加者の皆様にとってより関心のある分科会に参加してもらいたい。また午後の全体会では各分科会報告および国や地方自治体の立場にあるパネリストからの発表を含め、議論を行っていききたい。

\*以下の URL より「在日ブラジル人児童のための教材」および「在日フィリピン人児童のための教材」が無料でダウンロードしてご利用頂けます。

<http://www.tufs.ac.jp/common/mlmc/kyouzai/brazil/>  
<http://www.tufs.ac.jp/common/mlmc/kyouzai/philippines/>